

授業科目名： **インターネットの発展と産業構造の変化**

科目区分： 戦略・マーケティング（応用）

必修・選択の別： 選択

配当年次： 1・2 年次

単位数： 2 単位（学習期間 1 学期）

担当教員： 藤原 洋

オフィスアワー（授業相談の受付）：

e ラーニングサイトおよびメールでの質疑応答を受け付けています。

（メールアドレスは大学院グループウェアのアドレス帳でご確認ください）

1. 授業の概要

インターネットの本格的普及から 30 年を経過した今日、産業構造は大きく変化した。本講義では、インターネットの発展経緯とこれによって起こった社会、特にビジネス環境の変化について述べた後、今起こっている技術革新の本質と今後のビジネス環境について展望する。

2. 学習目標

社会を変えるのはテクノロジーであるという歴史観に基づく価値判断が重要であり、そこで、次の時代を読むには、技術革新の本質を理解することが求められる。本講義では、技術革新がもたらす産業構造の変化のメカニズムを解明すると共に、現在社会にとって大きな影響を与えたインターネットにおける技術革新の本質を把握し、今後の社会発展の展望を描けるようになることを学習目標とする。

3. 授業計画

第 1 章

・産業革命史におけるデジタル情報革命の位置づけ

産業革命史を理解するために、科学技術の本質と産業革命とは？ 力革命とその推進原理、重化学工業革命とその推進原理、デジタル情報革命とその推進原理、今日の日本と世界の置かれている状況、第 4 の産業革命の必然性、環境エネルギーにおける交通システムの位置づけ、第 4 の産業革命の中心となるスマートグリッドについて学ぶ。

第 2 章

・情報通信における技術革新と市場の変化

情報通信技術の革新による市場の変化を理解するために、情報通信分野における課題、ネットワークそのものの進化、こちら側に登場した Web と P2P の仕組み、あちら側の変化をもたらす Web2.0 とは？ インターネット・ビジネスのこれからについて述べる。

第 3 章

・インターネットによるビジネス環境の変化

ビジネス環境の変化を理解するために、インターネット・ビジネスの技術課題と成長の法則、インターネット・ビジネスを変えたベストエフォート、東京オリンピック／パラリンピック 2020 へ向けてのインターネット・ビジネスの環境変化について触れる。

第 4 章

・ビジネスインフラとなったインターネットと IP とは？

インターネットの基本技術について理解するために、インターネットとは？ IP とは？ インターネットと IP の意義について学ぶ。

第 5 章

・通信事業と ISP

インターネット・ビジネスの基本を理解するために、インターネット・ビジネスとは？通信事業とは？ISPとは？について述べる。

第 6 章

・通信事業と iDC

Web サーバーを収容する iDC（インターネット・データセンター）ビジネスについて理解するために、インターネット・インフラ事業 iDC とは？iDC の市場動向、新たな iDC 事業の方向性とは？について述べる。

第 7 章

・Web ブラウザによるビジネスインフラとは？

Web の基本について学ぶために、WWW と「ネットワークのこちら側」のブラウザとは？Web ブラウザのための HTML とは？HTTP とは？について詳しく述べる。

第 8 章

・検索エンジンビジネスとは？

検索エンジンのビジネスを理解するために、情報検索、メタデータとデータベース、検索エンジンについて述べる。

第 9 章

・メディアとしてのインターネットとは？

インターネットによるメディアビジネスを理解するために、メディアの歴史と現状、メディアのビジネスモデル、ネット広告の種類について述べる。

第 10 章

・インターネット広告と今後の展望

インターネットによる広告について理解するために、ネット広告の標準ツール、次世代ネット広告とは？ネット広告ビジネスの進化について述べる。

第 11 章

・電子商取引とオークションとは？

E コマース・ビジネスについて理解するために、電子商取引/インターネットオークションとは？電子商取引の典型的企業と市場規模、インターネットオークションの現状と課題について述べる。

第 12 章

・電子商取引関連企業の現状と今後の展望

E コマース関連企業の実態を理解するために、ヤフージャパンのビジネス、楽天のビジネス、DeNA のビジネスについて述べる。

第 13 章

・インターネットにおけるコンテンツビジネスとは？

ネット・コンテンツビジネスについて理解するために、インターネットによるコンテンツ利用環境、インターネットならではのコンテンツ、コンテンツ利用のための機器について述べる。

第 14 章

・新コンテンツビジネスの現状と今後の展望

ネット・コンテンツビジネスの実態を理解するために、メディアソフト流通の状況と情報流通量～総務省情報政策研究所の調査から～、通信と放送連携コンテンツのセキュリティ、企業におけるソーシャルメディアの利用実態について述べる。

第 15 章

・インターネット・ビジネスの今後の展望

今後を見通すために、インターネットに関連した社会の展望、我が国の ICT 産業の現状、我が国のインターネットを取り巻く動向、今後のインターネットの展望について述べる。

4. 受講上の留意点

大学の既定のスケジュール通りに遅延なく受講してください。

5. 成績評価基準

出席率 10%

各章小テスト 10%

期末試験 50%

期末レポート 30%

6. 必読書籍

特にありません

7. 参考書籍

毎回講義の際に準備される専用教材

8. その他

特にありません。